

ヒラメ天然稚魚の発生状況

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

水産業—栽培漁業—ヒラメ

2 担当者

新関晃司

3 要旨

相馬、請戸、いわき海域において、主に8月から10月にかけて水工研Ⅱ型桁網による新規加入量調査を実施した。その結果、ヒラメの天然稚魚が非常に多く採集され、平成22年度のヒラメ天然稚魚は卓越的発生であると考えられた。

- (1) 曳網面積と採集個体数から稚魚密度を算出したところ、平成22年度の1,000㎡当たりの稚魚密度は9.2個体/1000㎡であった。
- (2) 近年において卓越年級とされた平成17年度の稚魚密度は7.1個体/1000㎡であり、平成22年度は平成17年度以上の高水準で、調査開始以来最も高い値であった。
- (3) 調査で採集された稚魚の全長組成を平成17年級と比較した。8-9月の組成はほぼ同様であったが、10-12月の組成は平成22年級の方が平成17年級よりも大きな個体の割合が高かった。平成22年級のヒラメ天然稚魚は、平成17年級よりも順調な成長をしていると考えられた。
- (4) ヒラメは全長30cm以上で漁獲加入するが、平成22年級の天然魚は、今後大幅な成長の遅れがない限り例年どおり翌年9月頃に漁獲加入すると予想される。

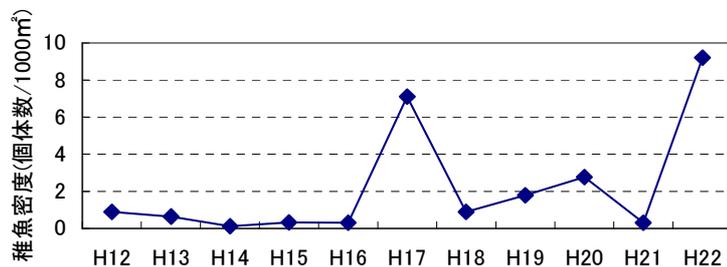


図1 8～10月の平均天然稚魚密度

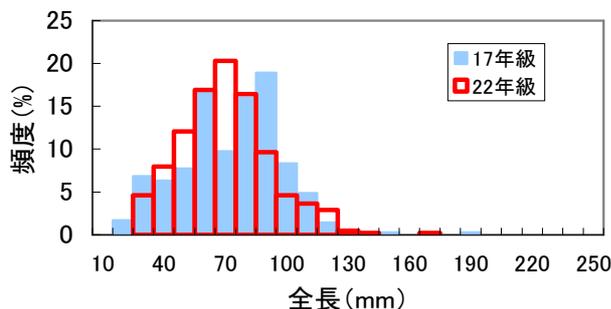


図2 8月-9月に採集されたヒラメ天然稚魚全長組成

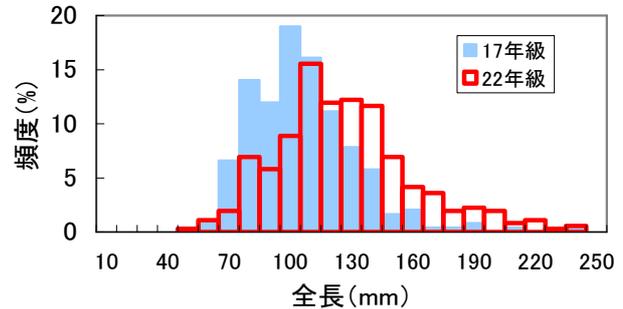


図3 10月-12月に採集されたヒラメ天然稚魚全長組成

4 主な参考文献・資料

- (1) 上原伸二・栗田豊・吉田雅範・後藤友明・高橋清孝・富山毅・藤浪祐一郎(2006) 東北海域におけるヒラメ新規加入量調査結果(2005年). 東北底魚研究, 26, 155-160
- (2) 富山毅(2005) 福島県におけるヒラメの放流効果. 平成17年度栽培漁業技術中央研修会テキスト集